

第6回 地域医療貢献奨励賞 受賞者（平成24年度）

須貝 昌博	山形県西村山郡西川町 西川町立病院・院長
<p>昭和54年自治医科大学卒。昭和57年4月から1年間、西川町立病院外科医として勤務。その後、昭和60年4月、率先して西川町立病院に勤務し、これまで、通算28年間にわたり、県内有数の豪雪地帯である西川町において、診療や地域住民の健康づくり等の保健検診事業等に尽力している。平成3年4月からは、副院長として人工透析治療の拡充に取り組みとともに、町の保健行政と連携した保健事業を実施し、検診データや予防接種、福祉情報を一元管理する総合データベースシステムの導入を積極的に進めた。また、町立病院に隣接したエリアへの特別養護老人ホーム、保健センター等の整備において中心的な役割を担い、保健・医療・福祉の一元化を推進した。平成17年4月に院長に就任した後も、出張診療、訪問診療、訪問看護の充実などに努め、自らも付属診療所である岩根沢診療所、小山診療所、大井沢診療所に赴き診察を行うなど、へき地における医療の確保に尽力している。</p>	
中谷 武	福島県南会津郡南会津町 医療法人南嶺会なかやクリニック・理事長
<p>昭和57年自治医科大学卒。義務年限終了後も、引き続き県立田島病院(現南会津病院)において地域住民の健康福祉の増進に寄与し、平成8年4月からは、自らもその設立に携わった南会津地方7町村の保健・福祉・医療をサポートする南会津地方広域市町村圏組合地域医療支援センター(へき地医療支援システム)の初代所長に就任し、センターの立ち上げに尽力した。平成9年4月には、南会津郡でもさらに山間地にある南会津町古町(旧伊南村)において、公設民営の伊南なかやクリニックを開業し、平成10年に医療法人化、平成11年には、南会津郡西部で最初の訪問看護ステーションである、せせらぎ訪問看護ステーションを設立し、地域に必要な訪問診療、訪問看護にも尽力した。また、平成18年には、医療設備の整っている南会津町片貝(旧南郷村)の施設に診療拠点を移し、南会津西部地域の医療機関として、外来での総合診療、訪問診療はもとより、学校医や医師会活動、地域の保健福祉事業への支援・協力などを積極的に行っている。</p>	
吉嶺 文俊	新潟県東蒲原郡阿賀町 新潟県立津川病院・院長
<p>昭和60年自治医科大学卒。六日町、妙高など山間部のへき地病院を歴任し、平成14年から現在の県立津川病院に勤務、翌15年から院長を務めている。津川病院のある東蒲原郡阿賀町は総人口に占める65歳以上の割合が41.5%と新潟県の市町村の中で最も高齢化が進んでいる町である。院長となった平成15年からは「在宅医療を支えるための病院医療」を津川病院の理念とし、東蒲原郡全体を対象に、医師だけでなく、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師を合わせたチーム医療による訪問診療、訪問看護に力を注いだ。月訪問患者数は平成16年の92.9人から、平成20年にはその倍の188.3人にも上っている。さらに、地域における健康増進活動も積極的に展開しており、集落単位で夕方にナイトスクールとして医療スタッフと住民との懇話会を開催し、参加者はこれまでに延べ1,000人を超えている。一方で、地域医療を支える人材育成にも力を入れており、県内外の研修医に地域医療研修等を通して、地域医療のあり方、取り組みや熱意を伝えている。毎年約20名の研修医が同病院の医師臨床研修の地域医療研修を希望して受講している。</p>	

浦岡 秀行	徳島県海部郡牟岐町 徳島県立海部病院・部長
<p>昭和59年自治医科大学卒。昭和61年から同県の南部に位置する海部郡に居を構え、以来、出羽島、木頭村、徳島県立海部病院を含め、現在まで約26年間にわたり県南の医療を支え続けてきた。当時から医師不足が叫ばれていた県南地域に義務年限終了後も留まり、平成6年にはへき地医療の拠点である徳島県立海部病院の整形外科医長となった。その間も、平成3年から4年間、海部郡牟岐町の南方約4km に位置する面積0.65平方 km の小島、出羽島にある、当時新築されたばかりの徳島県立出羽島診療所において所長を兼務し、島民の保健医療を支えた。平成18年には、患者が安心して医療を受けられるよう、海部病院において地域の医療機関等との連携・調整を図ることを目的とした地域医療センターの設置に尽力し、自身もセンター長に就任し、地域連携機能の充実を積極的に推し進めている。地域医療に関する豊富な経験と、それに裏打ちされた優れた技術、知識をもって後進の育成指導に寄与している。</p>	
小野 歩	高知県幡多郡大月町 大月町国民健康保険大月病院・院長
<p>昭和57年自治医科大学卒。義務年限終了年度の平成2年より、東京大学において研究活動に精勤し、平成9年、大月町国民健康保険大月病院に復帰した。平成12年12月から同院長に就任、現在に至るまで14年間にわたって大月町の保健・福祉・医療を守り育ててきた(義務年限期間を含めると、延べ24年間のへき地医療勤務となる)。平成9年から、大月病院として毎年夏期医学生へき地医療実習を受け入れている。また平成16年から始まった新医師臨床研修制度において必修科となった「地域保健・医療」でも毎年初期研修医を受け入れ、教育してきた。その実習や研修の場で、若い医学生や研修医に対して、大月病院の持つプライマリケアや地域包括ケア機能についての重要性を説き、また、在宅医療や看取り教育、急性期における幡多けんみん病院等との病・病連携等について地道に教育を続けている。こういったへき地医療の第一線における地域医療教育は、高知県が全国に誇れる医学教育の一つであり、県内共通の「地域保健・医療」研修プログラムの高い評価につながっている。また、各種学会での研究発表や学術雑誌への投稿等も継続し、自己研鑽に励む必要性を後輩医師に伝えている。</p>	
金丸 吉昌	宮崎県東臼杵郡美郷町 美郷町地域包括医療局・総院長
<p>昭和56年宮崎医科大学卒。平成4年に宮崎県東臼杵郡西郷村国民健康保険病院(現在の美郷町国民健康保険西郷病院)の院長に就任、同村に村民の健康増進と検診等の推進拠点施設として設置された健康管理センター所長や医療管理室長を兼務し、医療現場と行政両面の立場から地域に積極的に出向き、健康座談会や各種健診の説明会など住民の健康増進に尽力した。平成18年1月に隣接する3つの村(西郷村・北郷村・南郷村)が合併し「美郷町」となり、県から「へき地医療拠点病院」の指定を受け、美郷町地域包括医療局の総院長(平成22年1月)として、町内の3つの公立医療機関を総括し、医療と健康・福祉の連携を推進している。医療崩壊の危機に接し、平成22年8月からは「地域医療と健康を考える座談会」を町内全地区で開催するなどの結果、全国3番目となる「美郷町の地域医療を守る条例」が、議員からの発議で提出され制定(平成23年6月)された。また、宮崎大学医学部において、医学生に対する講義(地域医療)やへき地医療研修プログラムの提供、さらに、「医学生地域医療ガイダンス」の受入れや、地域医療交流研修の拠点として「みさと地域医療塾」を設立(平成23年度)するなど、年間25人程度の臨床研修医・医学生を積極的に受入れている。</p>	